



低臭タイプ

●この容器は、水を加えてかき混ぜられるよう、多少大きめにつくってあります。
●中身の塗料は正確な量目はいっていません。
●表示している色、ツヤおよび容器の中の塗料の色は、乾いてからの塗料の色と、多少異なることがあります。

3L

無鉛塗料
鉛・クロム化合物は使用していません。

注意書きをよく読んでから使用して下さい。

耐候性に優れシロアリから木部を守る 水性 ウッドガード

超撥水
撥水性が長期間持続!



防蟻効果

●安全性の高い薬剤を使用

用途

屋外の未塗装木部
ログハウス・住宅・倉庫・ウッドデッキ・雨戸・羽目板・板壁・ラティス・ガーデン木製品など



シロアリキクイムシ

防虫

防腐

防カビ

標準塗り面積
(2回塗り)

13~22㎡
タタミ8~13枚分

乾燥時間

夏期/約2時間

冬期/約3時間

塗り重ね時間の目安

夏期/3時間以上

冬期/6時間以上



塗りにくいときは
水
(5%以内)
ですめて下さい

商品名 水性ウッドガード外部用 品名 合成樹脂塗料(水系)

成分 合成樹脂(アクリル・ウレタン)、顔料(クリヤは除く)、防腐剤、防カビ剤、防虫剤、撥水剤、水

特長

- 水性で塗りやすく、低臭タイプの木部専用塗料です。
- 木目を生かした美しいステイン仕上げができ、日光や雨に強く耐候性が優れています。
- シロアリ、キクイムシ、腐れ、カビに対して、長期間強い効果を発揮します。
- 撥水剤の配合により、塗装直後から長期間撥水性を維持し、木部を保護します。
- 安全性を配慮した薬剤を使用しています。

用途

- ログハウス・ウッドデッキ・バルコニー・ベンチ・雨戸・羽目板・板壁など屋外の未塗装木部
 - ラティス・トレリス・プランターなど未塗装のガーデン用木製品
- 他の塗料が塗装されている場合は塗れません。旧塗膜を充分取り除いてから塗して下さい。絶えず水がかかったり水につかることや、いつも濡れているところ、また頻りに歩行する床面には適しません。

塗装方法

- ① 塗る面のゴミ・油分・サビ・カビ・ヤニ・ワックスや、旧塗膜などを取り除き、木部の水分を乾燥させます。
- 下地処理は右の下地処理の注意に従って行います。
- ② 塗料がついて困るところは、マスキングします。(塗料は浸透性が良いため、マスキングテープの端から塗料がにじむことがあります)
- ③ 使用するときは、容器のフタを開ける前に、容器をよく振り塗料をよく混ぜます。フタに手をそえて、フタと容器の間にマイナスドライバーなどを差し込んで開け、棒などで塗料を底から充分にかき混ぜて均一にします。
- ④ ③をすませて、ウッドケア用ハケ(PC水性木部塗料用など)を使用して、木目にそってたっぷりと吸い込ませるように塗り、塗り重ね時間の目安に従って、さらにもう1回塗り重ね、2回塗りて仕上げます。2回目は塗装条件により、塗りムラ・ハシキが生じることがありますが、この場合はハケ返しを何度か行なって均一に仕上げます。(1回目は色が薄くつきますが、2回塗りすると色が濃くなり、わずかにツヤが出てきます)
- ⑤ 塗料はうすめしないで塗るように調整してありますが、粘度が高く塗りにくいときは、水で少し(5%以内)うすめます。
- ⑥ 塗装後、塗装表面にざらつきが生じた場合、サンドペーパー(＃320程度)を軽く当ててから塗り重ねると、滑らかに仕上がります。
- ⑦ 広い面の塗装は、コテバケを使うと効果的です。
- ⑧ 塗り終わったら、すぐにマスキングテープをはがします。

用具の手入れ方法

使用した用具は乾かないうちに、新聞紙かボロ布でできるだけ塗料を拭き取り、水が湯で洗って下さい。

保管上の注意

- ① 幼児の手が届かないところに保存し、子供が誤飲・誤食いたすをしないように注意して下さい。
- ② 直射日光や火気のある場所、-5℃以下になるところ、自動車内などの温度が高くなるところ、容器がさびやすいところには置かないで下さい。
- ③ 残った塗料はしっかりとフタを閉めて保管し、できるだけ早く使い切して下さい。

取扱い上の注意

- ① 表示の用途以外に使用しないで下さい。塗料がすでに塗られている面や吸いこみがない化粧板には塗れません。食器など直接食べ物と接触するところには塗らないで下さい。
- ② 犬小屋や鳥かご、その他ペットなどがなめたり、かじったりするような木部には塗らないで下さい。
- ③ 病人、妊婦、乳幼児、薬剤によってアレルギー症状やかぶれ等をおこしやすい方、特異体質の方がいる場所では取扱わないで下さい。
- ④ 目に入ったり、皮膚に付着しないよう、また誤飲しないように注意して下さい。
- ⑤ 塗装中、乾燥中とも換気をよくして下さい。
- ⑥ 塗料がついても支障がない服装で作業をして下さい。
- ⑦ 塗装は雨の降りそうな日や湿度の高い日は避け、天気の良い日に塗って下さい。
- ⑧ また、塗装中、乾燥中とも5℃以下になるときは塗らないで下さい。
- ⑨ 塗り重ねの間隔が長くなったり、降雨後に塗り重ねると、塗る素材によっては塗料がはく場合があります。この時には＃600程度のサンドペーパーで表面を軽く研磨してから塗って下さい。
- ⑩ 塗料が草木などの植物にかからないよう、また河川、池、下水道に入らないように注意して下さい。
- ⑪ 塗料のかくはんが不足すると、中身の成分が混ざらずに十分な効果を発揮できない場合があります。
- ⑫ クリヤは屋外の直射日光が当たる場所では、有色品に比べて色あせしやすい傾向があり、未塗装部分と同様に素地が(灰色などに)変色します。
- ⑬ 均一になった塗料の見かけの色は、エマルジョン樹脂の影響で表示の色と異なって見えることがありますが、表示の色は2回塗りした乾燥後の色です。
- ⑭ 下地の色や吸い込みの割合によって仕上がり状態や色、乾燥性が大きく左右されますので、あらかじめ目立たない部分で試し塗りをして、色・浸透性・下地への影響などを確かめてから塗って下さい。
- ⑮ 塗り面積・乾燥時間・着色力・色相などは、素材・塗り方・気象条件などにより多少異なります。
- ⑯ 塗装面がぬれている場合や、はき物の種類によっては歩行の際に滑りやすくなることがありますので注意して下さい。
- ⑰ 表示の色は印刷のため、実際の色と多少異なります。
- ⑱ 容器は塗料を使いきってから捨てて下さい。
- ⑲ やむをえず塗料を捨てるときは、水性・油性兼用塗料固着剤で固化してから新聞紙などに塗り分け、乾かしてから一般ゴミとして処分して下さい。
- ⑳ 容器を落下させると中身が漏れることがありますので、取扱いに注意して下さい。

下地処理の注意

- ① 塗る面全体を、木目にそってワイヤーブラシか＃240程度のサンドペーパーを使用してきれいになります。
- ② ヤニが多い箇所は、ラッカーうすめ液でヤニを充分拭き取って下さい。
- ③ 他の塗料が塗装されている箇所には使用できません。旧塗膜を充分取り除いて下さい。

危険		● 遺伝性疾患のおそれ ● 臓器の障害 ● 水生生物に非常に強い毒性
救急処置	● 目に入った場合には、直ちに多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。 ● 誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。 ● 蒸気、ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所まで安静にし、必要に応じて医師の診察を受けて下さい。 ● 皮膚に付着した場合には、多量の石鹸水で洗い落とし、痛み又は外観に変化のあるときは、医師の診察を受けて下さい。	

株式会社 ASAHI PAINT 大阪府鶴見区鶴見4-1-12
http://www.asahipen.jp
お客様相談室 ☎06-6934-0300
日本製 01-1703